

伊達赤十字病院と住民の皆様を繋ぐ情報誌

# だてクロス

総合病院伊達赤十字病院広報誌

・P 1～4 <特集>『当院の感染対策活動について』

小児科部長 林 英蔚

・P 4 ～第32回市民健康講座を開催～

・P 5～7 新興感染症（新型コロナウイルス）と闘う



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

伊達赤十字病院

ご自由にお持ち  
帰りください

Please take it home freely.

Vol.16



<特集>～新型コロナウイルスと闘う～

## 『当院の感染対策活動について』

### Doctor Profile

林 英蔚（りん えいい）  
感染管理室長（小児科部長）

- 京都大学医学博士
- 日本専門医機構小児科専門医
- 日本血液学会専門医、指導医
- 日本感染症学会専門医、指導医
- 日本小児血液がん学会評議員

私たち院内感染制御チーム（infection control team, ICT）の役割はその名の通りですが、その目的は様々な疾病治療の標準的治療の障害となりうる感染症を抑制することで、当院をご利用になられた患者様たちが適切に治療されることです。

院内感染対策には、院内だけではなく地域社会における感染症の流行を抑えることや地域における抗微生物薬の適切な使用を啓蒙することも重要です。地域で感染症が流行すると、外来における感染症への対応が必要となり、免疫の弱い人や体力のない人は入院治療の可能性が増えてきます。また、感染症の入院数が多くなると、感染症以外での治療が必要な患者様（例えば癌や心筋梗塞、糖尿病など）が入院できなくなったり治療を受けられなくなったりしますし、病院職員が感染症に罹患することで勤務できなくなり病院機能が低下



あるいは停止してしまいます。また、抗微生物薬が適切に使用されていない地域では、抗微生物薬が効かない（薬剤耐性）微生物が増加し治療が困難を極めることができます。

そこで、地域社会における感染症流行を抑制する取り組みの一つとして、5年前から当院の感染制御チームは伊達市内の小中学校に向いて手指衛生などの感染症を減らす基本的な手法について実演を交えて指導してきました。予防接種によって罹らずに済む病気も多く存在するため、これらの啓蒙にも努力してきました。また、病院スタッフの教育にも力を注いきました。多くの病院職員にもこの活動に賛同を得まして、今では90%以上の職



員が院内感染対策の重要性を理解し協力しており、地域の医療の質の向上に努力してくれています。

抗微生物薬は微生物つまり細菌、ウイルス、寄生虫、カビなどを殺したり、増殖を抑えたりする薬です。しかし、微生物も様々な手段を使って、薬から逃げ延びようとします。このように、微生物に対して薬が効かなくなることを、「薬剤耐性」と呼びます。「薬剤耐性」の問題は細菌、ウイルス、寄生虫など幅広い範囲でみられますが、近年、中でも細菌の薬剤耐性が注目されています。



細菌に使用する抗微生物薬を抗菌薬（抗生物質と呼ばれることもあります）といいます。抗菌薬が使用されると、抗菌薬の効く菌はいなくなり、薬剤耐性をもった細菌が生き残ります。その後、薬剤耐性をもった細菌は体内で増殖し、ヒトや動物、環境を通じて世間に広がります。抗菌薬の不適切な使用はこれを助長します。風邪などもともと抗菌薬が効かない感染症にはみだりに使用せず、本当に必要なときに限って使うことが大切です。残念ながら、伊達周辺地域ではニューキノロン系抗菌薬（トスフロキサシンやレボフロキサシンなど）に耐性の細菌が増加しており、日本全国の上位5%に入る割合で検出されます。この薬剤耐性を司る遺伝子は、一つの細菌から他の細菌へも移っていくことの出来るものであり、実際に地域で検出される多くの細菌が薬剤耐性を獲得しており道内の他の地域と比較しても、感染症に罹患した場合の死亡率が高くなっています。

この状況を打破する第一手は、適切な抗菌薬

の使用です。つまり、抗菌薬は細菌に対して使う薬剤ですので、ほとんどがウイルス感染である「風邪」には抗菌薬は有効ではないことや、急性中耳炎のように細菌感染の割合が高いものでも70%程度は抗菌薬なしで治癒するので早期から抗菌薬を使用しないことがガイドラインでも示されています。一方で、敗血症のように血液中で細菌が増殖しているような重篤な細菌感染症では、早期の抗菌薬による治療介入が必要です。このように、必要不可欠な場合、適切なタイミングと適切な種類の抗菌薬の使用が安全な地域の将来を担保すると考えられます。従って、医療従事者だけでなく一般市民の方々にも「風邪だと言わされたのに抗菌薬を処方されたけど必要ですか?」と言う疑問を持っていただきたいと思います。

世界保健機構（WHO）は2011年に「今日行動を開始しなければ、明日の治療はない」として、薬剤耐性問題を世界中で取り組むべき問題として取り上げました。現在、未来に使える抗菌薬を残そうと、世界各国で対策に取り組んでいます。

日本でも、厚生労働省医政局が各都道府県衛生主管部(局)長あてに医療機関における院内感染対策についての助言を行っており、当院でもこれに従って対策を強化してきました。この助言では、医療機関内での感染症アウトブレイクへの対応については、平時からの感染予防、早期発見の体制整備及びアウトブレイクが生じた場合又はアウトブレイクを疑う



場合の早期対応が重要となること。このため、院内感染対策については、個々の医療従事者ごとの判断に委ねるのではなく、医療機関全体として対策に取り組むことが必要であること。また、地域の医療機関でネットワークを構築し、院内感染発生時にも各医療機関が適切に対応できるよう相互に支援する体制の構築も求められること。などが、明記されています。

そこで、当院では病院長も積極的に感染制御にかかわるとともに、診療科に始まり事務職員を含める全ての部門を代表する職員により構成される「院内感染対策委員会」を設け、院内感染に関する技術的事項等を検討するとともに、雇用形態にかかわらず全ての職員に

対する組織的な対応方針の指示、教育等を行っています。また、得られた知識を各自で確認するための試験も行っています。院内全体で活用できる総合的な院内感染対策マニュアルを整備し、各部署から院内感染に関する情報が院内感染対策委員会に報告され、院内感染対策委員会から状況に応じた対応策が現場に迅速に還元される体制も整備しています。また、ICTは、定期的に病院内全体をくまなく、又は必要な部署を巡回し、必要に応じてそれぞれの部署に対して指導・介入等を行っています。病棟ラウンドについては、可能な限り1週間に1度以上の頻度で行い、同時に抗菌薬の使用状況を把握し、必要に応じて助言・介入を行っています。

### 第32回市民健康講座へのご来場ありがとうございました。

令和5年2月4日（土）に第32回市民健康講座が行われました。冬季開催ということもあり悪天候も心配しておりましたが、晴天にも恵まれ190名の住民の方々にご参加いただいたことに感謝しております。次回は令和5年7月に予定しておりますので多数のご参加をお待ちしております。



#### 『高齢者の体の痛み』

講師 伊達赤十字病院 整形外科部長 吉田 憲治



#### 『テレビでは教えてくれない新型コロナ最新情報!! Part2』

講師 伊達赤十字病院 感染管理認定看護師  
看護師長 松浦 英樹



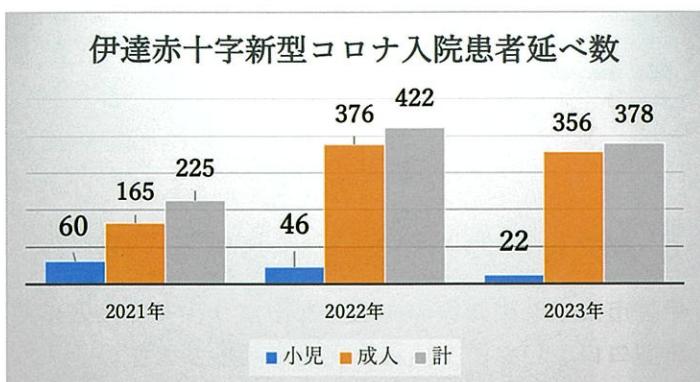
#### 『認知症になつたらどこに相談したら良いのですか? 何をしてくれるのですか?』

講師 伊達赤十字病院 医療社会事業課長  
(医療ソーシャルワーカー) 横川 彰史

# 新興感染症(新型コロナウイルス)と闘う

## I. 新型コロナ感染者入院対応者数

2021年～2022年まで計**1025名**（延べ入院患者）の方に対し、医師・看護師・メデカルスタッフ全員が一丸となり、最新治療や患者と寄り添った看護を提供してきました。



## 2. 新型コロナウイルス感染病棟での看護



早川 紀子 看護師長

資格：院内感染対策チーム（ICT）／呼吸療法認定士

私は、当院が新型コロナウイルス感染症患者様の受け入れを開始した当初から初動メンバーとして関わってきました。当時は未知のウイルスであった新型コロナウイルスに対し、患者様を受け入れる体制づくりに各部署の連携を強化し取り組みました。あれから3年、安全な入院環境が整えられています。新型コロナウイルスに感染し身体的・精神的苦痛を抱えながら入院される患者様に対し、より良い医療・看護が提供できるよう職員一人一人が高い意識を持ち続けています。私たちの喜びは患者様が定められた隔離期間を終え元気にご自宅や元の施設等に戻られることです。そのためこれからも感染症病棟での看護に尽力していきます。





### 3. 伊達市の基幹病院としての活動

伊達市民の感染対策の一助となるよう、多くの方に対し新型コロナワクチン接種を実施しております。

2021～2022年までに**44,730回**の接種を実施しております。

2021年～2022年

**44,730回接種**



### 4. 発熱外来の設置

発熱者外来を設けております。これにより新型コロナ感染症を疑われる方は別な場所で診察を受けることができます。そのため一般の患者さまも安心して受診することができます。



### 5. 正面玄関で来院される方全員の体温測定および手指衛生の協力をお願いしております。



体調の確認も行っており、新型コロナウイルス感染を疑う場合には速やか診対応しております。



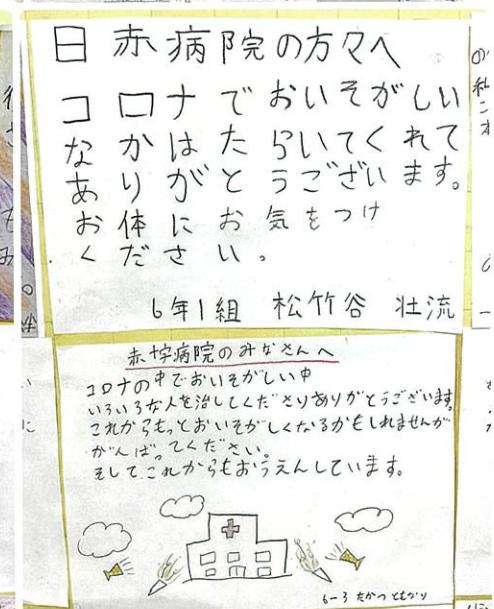
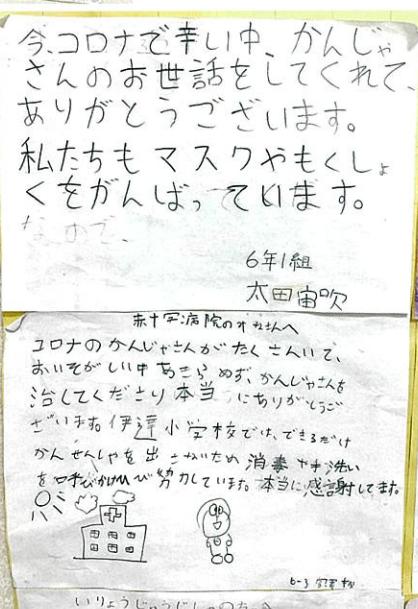
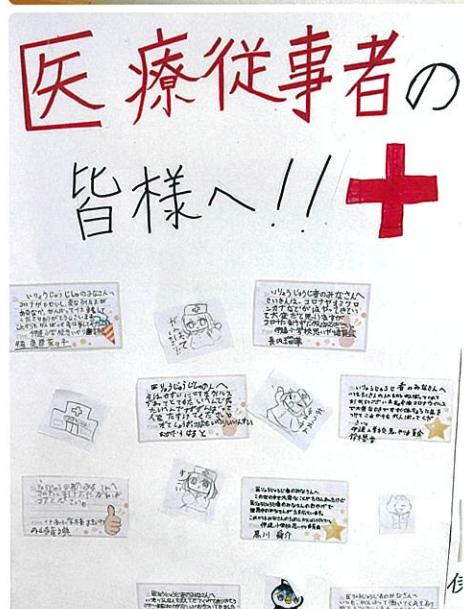
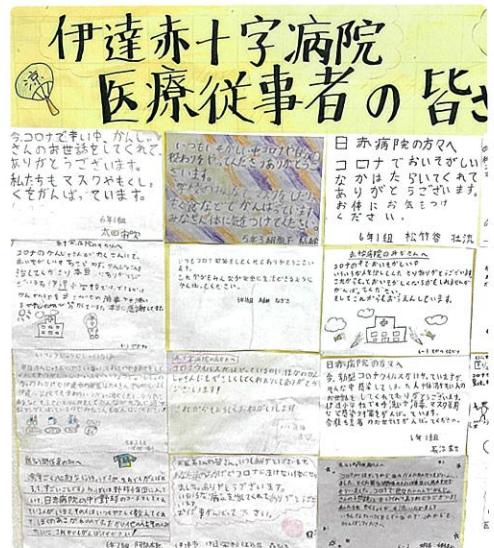
## 6. 新型コロナ感染症（COVID-19）と闘う



松浦 英樹 感染管理室・ICT（看護師長）

資格：感染管理認定看護師／赤十字救急法講師

2019年当院で新型コロナウイルス感染症患者の受け入れは、未知のウイルスへの情報が少なく、対応された職員は複雑な不安があったと思います。そのような中、地域から多くの応援メッセージに力をいただきました。また、不足するマスクは赤十字奉仕団の手作りで、計1700枚を作成していただきました。全職員・地域の支えがあって危機的状況に対応してきました。今後も赤十字では命を救うことに全力で取り組んでいきます。



# ～旨味凝縮 冬野菜のすすめ～

土の中に身を潜めて旨味を凝縮させる根菜類や、霜が降りると甘みを増す白菜やほうれん草などの葉物野菜は定番の冬野菜。

体を温める働きを持つものが多く、寒さや風邪などから、私たちを守ってくれる。  
今回注目した冬野菜はこちら！



## 水菜～シャキシャキとした独特の食感を楽しむ～



日本特有の野菜で古くから京都で栽培されており、京野菜として知られている。

畑の作物と作物の間に「水」を引き入れて栽培していたことから、この名前がついたと言われている。

近年は全国で周年出回るが、本来の旬は冬。霜に当たると、茎部分が柔らかくなり、さらに旨味を増す。

カロテンとビタミンCが多く、カルシウムや鉄、食物繊維も豊富。

### 選び方のpoint!

- ①葉の先がピンとしていてみずみずしいもの
- ②茎が鮮やかな白色をしたもの



## 寒い冬におすすめ 「ハリハリ鍋」

### 【材 料】

- ・たっぷりのミズナ
- ・豚肉
- ・おだし(カツオ・昆布・だしパックを使ってもok)  
のたったこれだけ！



大阪発祥の鍋料理ハリハリ鍋。  
食感を生かすために水菜の  
茹すぎには注意してね！

豚肉は伊達産のおいしいお肉を使うとより美味です！

「野菜たっぷり」・「手間いらず」・「お財布にも優しい」ハリハリ鍋  
一度食べてみてはいかがでしょうか♪

管理栄養士 和野



日本赤十字社 伊達赤十字病院

伊達赤十字病院広報誌「だてクロス」第16号 2023年3月発行  
発行責任者：武智 茂 編集者：伊達赤十字病院広報委員会

〒052-8511 北海道伊達市末永町81番地  
TEL 0142-23-2211 (代表)  
E-MAIL drch@date.jrc.or.jp (代表)  
URL https://date.jrc.or.jp